



梅沢 和也
形成外科部長

外科部長の梅沢和也医師は「外来と手術室の行き来もなくなり、患者にとつてより利用しやすい環境になっ

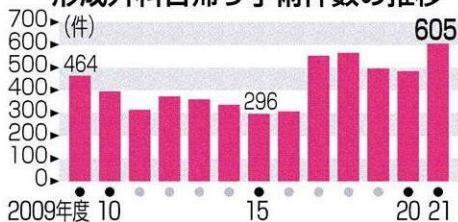
やまなし
医療最前線
新3OR始動

県立中央病院から

〈287〉

山梨県立中央病院に今月、新たな手術室（OR）が誕生し、形成外科は手術の待機期間が半減する見込みとなっている。同院形成

県立中央病院
形成外科日帰り手術件数の推移



の改善、皮膚がんの切除、傷痕をきれいにして目立たなくする「瘢痕形成手術」などがあるという。

形成外科は2016年度に梅沢医師が加わり、常勤医が3人となった。体制強化によって手術件数は増加し、21年度は日帰りのみで605件となり、常勤医2人時代に比べてほぼ倍増している。

形成外科の日帰り手術で利用できるのは週1・5日。外来診察室での手術も多いが、それでも予約を入れてから2〜3カ月待ちになっていた。

今月から2階に新設した手術室を併用できるようになった。梅沢医師は「これまで以上に手術ができるようになった。待機期間は3週間まで減らせる」との見

通しを示す。

新手術室の稼働に伴い、業務の見直しも図った。新手術室には専属のスタッフを配置し、受け付けや手術後の説明を1カ所ですべて完結させるシステムを採用した。患者は、3階にあるメイン手術室と1階にある形成外科の外来を移動する必要がなくなった。

手術室と外来では担当する看護師が異なり、看護師同士で患者の情報を共有する必要があるが、新手術室では担当看護師が一元的に対応している。梅沢医師は「情報の伝達漏れが起きるリスクがなくなり、医療の質を高めることができる」と話している。次回は2月20日に掲載します

形成外科手術枠が増加 待機期間大幅に短縮へ

と、同院は幅広く日帰り手術を行っている。切断了た指先の再建や、まぶたが下がってしまう「眼瞼下垂」

形成外科は主に体の表面にある病気の治療を行う専門領域で、梅沢医師による

一方で課題となっていたのは手術枠の確保。メイン手術室（中央手術室）は他の診療科と共用していて、

手術室（中央手術室）は他の診療科と共用していて、

手術室（中央手術室）は他の診療科と共用していて、